北アルプス

滝谷　ドーム中央稜・第四尾根

２００９.８.１３-１６

Ｌ河崎、斉藤、杉山（ＡＣ横浜）

昨年悪天の為敗退した滝谷、今年はリベンジして行こうと思った。結果は、登攀日は天候にも恵まれ最高のクライミングが出来、また一つ良い思い出を残すことが出来た。

前夜、杉山さんに毎度の通り長後駅でピックアップをしてもらい、斉藤さん宅に寄り、いざ出発。天候を見て予定を一日遅らせた為ゆとりを持って出る事が出来た。

沢渡には２３時前には到着し、軽く一杯やってから就寝。思ったより車は少ない。

8/13（木）

本日は天候は良くない予報。上高地を出てしばらく歩き出す、早速雨がぱらつきだし、折り畳み傘の出番となった。涸沢までのアプローチだが、荷も重たいし次第に雨も本降りになってきてきつくなってくる。

ここ最近穂高方面にばかり来ている。上高地からのアプローチもマンネリ気味だ。

一昨年は奥又白池、昨年は滝谷、春は明神東稜、そして又滝谷、そろそろ剣とか別方面に又行こうと思う。

斉藤さんは絶好調だ。日々のトレーニングに毎週のように行っている山、途中からは先に行って見えなくなってしまった。

雨にもかかわらず、黙々と歩いた結果２時前に涸沢に着き、テントを張ることが出来た。しかし雨と汗でびしょびしょである。

ガスカートリッジを二つしか持って来ていなかった為、節約気味にコンロを炊く。しかし幸いにもカートリッジが売っていた為、途中からは少し乾燥のために火を使えた。

久しぶりに雨の中の行動で不快な思いのする時間を過ごしたが、夜は疲れの為か意外と寝られた。しかし雨が寝る時間までも降っていて、明日晴れ間が出なかったら、岩は乾くのかなと少し心配になった。とりあえず４時に起きて天候を見る事にした。

＜コースタイム＞

上高地（８：００）-涸沢（１３：３０）

8/14（金）

朝起きると星も出ている。山なので天気の回復も遅いと思ったが、意外と早めに回復してくれたようだ。予定通りペースを上げて、登攀する事にする。本日は登攀が控えている為、体力温存の為ゆっくり登る。それでもペースは意外に良く、速めに北穂のテンバに着く。

テントは１張しか無かったが、そのパーティーは既に出発したようで、色々なものが干してあった。私達も昨日濡れたものを干す為、小一時間物干しタイムとする。

一通り乾いたところで、９時過ぎに出発。天気も最高で、快適なクライミングが予想出来た。

アプローチは昨年偵察済みで、経験者の杉山さんもいたので、それ程問題も無く行く。最後に懸垂するところがあって、降りて少し回り込んだところが取付きである。

杉山さんは毎度のことで岩場に着くと

キジを打ちに行く。おっぱじめる前に緊張の為か便通を催すのは良く分かる。

メインとなる 1、2 ピッチ目を僕がリードさせてもらう事にする。

今回、滝谷はクラックが発達していると言うことでカムを一通り持ってきた。

登り始めから早速カムを活用し、快適にザイルを延ばす。

１ピッチ目の最後のチムニーが核心と記録によく書いてあったが、チムニーの中に入り、体を反転させて出る所が空間に出る感じで高度感がある。しかし昨年までのアルパインと違い、フリーがある程度登れる様になっている為か、怖くは無かった。オフィズスみたいな感じだったので、クラックを多少やってきた経験も生き、成長を実感できた。斉藤さんは慣れてない為か少

してこずったようだった。

２ピッチ目からはいよいよカンテに出て、太陽の下爽快なクライミングが始まった。最後のハングが少し思い切りが必要だが、ここもフリーの経験が生き突破。

３ピッチ目からは斉藤さんにバトンタッチして行って貰う。今まで色々な所に行って来たが、夏のアルパインは初で、初めはぎこちなく緊張気味の様子。現場での実践勉強も交えて、４ピッチ目、５ピッチ目と快適に登る。

ここでもクラックをやって来た経験が生きたと感じたのは 5 ピッチ目の最後で、ジャミングで快適に乗っ越す所だった。

極めて快適で岩も硬く、爽快なクライミングが出来、とても満足だった。

ドームに取付いたのは今日はうちらが初めだったみたいで、後からは後続が何パーティーか登って来ていた。

登り終えてからは水を買いに北穂の小屋まで一投足。ついでに生ビールも売っているとの事で、テラスで本日の成果を祝ってグビットやる。私はなぜかペプシコーラでシュワッとやる。しばし穂高の山並みを眺めて、良い気分になったところで、テンバに戻る。

テントの受付をすると、私や杉山さんとはよく行く雪童の岡崎さんパーティーも来ている様子。

テンバに戻ってからも時間は余裕があるので、それぞれの時間を過ごし、岡崎さん達もいたので談笑をする。

今回は新人二人を連れての槍からの予定で来ていて、本日はドーム西壁を登ったらしい。

いつの間にかテントも増えて、小屋の人に依ればこの夏一番の賑わいだそうだ。

日が暮れる頃にはシュラフに入っていた。昨年はこの時間もまだ初日は登っていたなー、などと斉藤さんと話していた。

＜コースタイム＞

起床（4：00）-出発（5：30）-北穂テンバ（8：00）-テンバ発（9：05）-ドーム中央稜登攀取付き（10：25）-終了点（13：05）-北穂小屋を経てテンバへ（15：00 頃）

8/15（土）

本日は長大な第四尾根を登る。昨日と違い時間も掛かるので多少緊張感のあるが、テンバを上に上げているので楽である。

出発時、丁度朝日がいい感じで出て、しばし眺めていてから出たかったが、杉山さんから“その必要は無い”ときつい一言。

気分が害された。（後で悪かったと言われたが・・・）山だと時に真剣になるため、きつい言葉が出る時もあるものである。

アプローチは北穂小屋方面に行き松浪岩の下から踏み後に従って降りて行く。

アプローチが核心とよく言われているが、確かにガレ沢下りで神経を使う。私が先頭を行っていたが、途中上の二人からの落石で冷や冷やした場面もあった。小滝は何とかクライムダウンで懸垂をしなくても降りられた。

約 1 時間で下に降り立つとスノーコルへの踏み後があり、そこで登攀準備をする。

ここからの眺めは凄くまさに岩の真っ只中にいる感じだ。ガレが凄く岩の墓場という例えがよく合う。

今回、ピッチ数も多いので 3 人で何ピッチずつか交代で登る事にする。始めは杉山さんだ。尾根をしばらく行った所からスタートだが、壁というより岩稜だ。問題なく登ったが、3 ピッチめの磨かれたカンテ

C沢左俣

Cカンテ上凹角

が少し面白い。Cカンテからが斉藤さんの番でピナクルへ向けて凹角の登るが、今回全体的に言えることだが、とにかく岩がもろく落石を起こさないように神経を使う。

ピナクル付近がビレイ点が余りよくなく、ザイル操作が不規則になる。その後、ツルムの肩までザイルを延ばしそこでしばし休憩。上にはドーム中央稜を登るパーティーが多く見られる。今日はかなり賑わっているのだろう。雪童の岡崎さん達も始め同じルートを登る予定だったらしいが、体調不良者が出た為、ドームにしたらしく上から呼ぶ声が聞こえた。

そこから懸垂20m強でツルムのコルへ降り立ち、最後の核心 2 ピッチは自分の番である。

見た目ほど傾斜は強くなく快適に登り、最後のチムニーを越してまず 1 ピッチ終了。次が最後の核心らしいが、この 2 ピッチは固い岩を想像していたが、結局最後まで脆いことには変わりは無かった。最後のハング越えがそれなりに面白くジャミングをやっていなかったら苦戦しただろうが、快適に超える事が出来、雄叫びを上げて突破。しかし、そこで斉藤さんをフォローで確保していたらホールドが取れて墜落！持ったホールドが良くなかったら

最後のハング

しい。事なきを得て上がってきたが、ここでも 4 尾根の脆さが感じられた。

無事、全てのピッチを登り終え握手！

滝谷のクラシックルートを 2 本登る事が出来充実感一杯だった。テンバに戻る途中岡崎さん達のパーティーに会い、穂高岳山荘まで今日中に行き、明日下山らしい。

私達も今日中に涸沢に下ろし、明日余裕を持って下山しようという事になった。

麻には賑わっていた北穂のテンバも既にがらんとしており、この夏一番の賑わい

朝のテンバの様子

ももう終わりなのかなと思った。

登り 2 時間半位掛かった所を 1 時間程度で降り、涸沢のテラスでビールジョッキを 2 杯ほど飲み、おでんも食べ、カップラーメンも食べてと、全ての仕事から解放されて十分に山の時間を堪能できた。

夜には少し雨が降ったが、翌朝には止み下山も快適に下りることが出来た。

＜コースタイム＞

起床（4：00）-出発（5：00）-スノーコル（6：10～6：45）-終了点（11：15）-テンバ（12：00-13：00）-涸沢（14：05）

8/16（日）

のんびり支度をして出発、通い慣れた道をひたすら上高地目指して歩く。途中、屏風岩の見える所でルート観察をしたりして次の機会には。。。と思いをはせた。

昨年天候不順のため登れなかった滝谷、2 年越しでやっと完登する事が出来、しかも登攀日には天候も完璧で正にアルパインというクライミングが出来た。

日本のクラシックルートと言われる 4 尾根だが、今回登った感じでも脆さが感じられ、将来はもう登られることも無くなってくるのかなと思うと、歴史に埋もれていくルートの寂しさも感じた。

杉山さんも 4 尾根は機会が無く 20 年越しで登れたと言っていた。

私はなぜか谷川岳の岩場とは縁が無く実は 1 本も登っていないが、メジャーな所位は登りたいと思う。しかし、フリークライミングが主流になりつつある現在、過去に登られたクラシックルートと言われる所も特に難しいルートは支点の老朽化や、技術的な困難ではなく悪さ、外的危険性もあると思うし、登る人も少なくなっているのではないか。

そんな話も良く杉山さんなんかとは話すのだが、自分としてはここ最近穂高周辺ばかり通っていたので、来年からは剣方面にでも足を伸ばして行こうと思っている。

残雪期にも魅力的なルートが一杯あるし、岩も快適である。アルパインをやるメンバーも増えてくれると嬉しい。

＜コースタイム＞

涸沢（6：30）-上高地（11：30）